

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第二十三主日礼拝のしおり

2022 年 11 月 13 日

前奏

招きのことば：詩編 98 編

【賛歌】新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。| 右の御手、聖なる御腕によって主は救いの御業を果たされた。| 主は救いを示し 恵みの御業を諸国の民の目に現し イスラエルの家に対する 慈しみとまことを御心に留められた。地の果てまですべての人は わたしたちの神の救いの御業を見た。| 全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。| 琴に合わせてほめ歌え 琴に合わせ、楽の音に合わせて。| ラッパを吹き、角笛を響かせて 王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。| とどろけ、海とそこに満ちるもの 世界とそこに住むものよ。| 潮よ、手を打ち鳴らし 山々よ、共に喜び歌え 主を迎えて。| 主は来られる、地を裁くために。主は世界を正しく裁き 諸国の民を公平に裁かれる。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちはときどき世の終わりや自分の人生の終わりについて考えます。イエス様によって私たちは安心して終わりを迎えることができることを前もって教えていただいています。イエス様は私のために十字架で死んで罪をすべて赦してくださいました。信じて洗礼にあずかるものには天国が約束されています。ですから世にある今も、安心と確信をもって、イエス様にあって使命にいきいきと生きることができます。苦しいことがあり、悩むこともあります。そして、その中でこそ、イエス様がお助け下さることを体験できることを感謝いたします。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：テサロニケの信徒への手紙第二 3章6-13節

兄弟たち、わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの名によって命じます。怠惰な生活をして、わたしたちから受けた教えに従わないでいるすべての兄弟を避けなさい。あなたがた自身、わたしたちにどのように倣えばよいか、よく知っています。わたしたちは、そちらにいたとき、怠惰な生活をしませんでした。また、だれからもパンをただでもらって食べたりはしませんでした。むしろ、だれにも負担をかけまいと、夜昼大変苦労して、働き続けたのです。援助を受ける権利がわたしたちになかったからではなく、あなたがたがわたしたちに倣うように、身をもって模範を示すためでした。実際、あなたがたのもとにいたとき、わたしたちは、「働きたくない者は、食べてはならない」と命じていました。ところが、聞くところによると、あなたがたの中には怠惰な生活をし、少しも働かず、余計なことをしている者がいるということです。そのような者たちに、わたしたちは主イエス・キリストに結ばれた者として命じ、勧めます。自分で得たパンを食べるように、落ち着いて仕事をしなさい。そして、兄弟たち、あなたがたは、たゆまず善いことをしなさい。

福音書朗読：ルカによる福音書 21章5-19節

ある人たちが、神殿が見事な石と奉納物で飾られていることを話していると、イエスは言われた。「あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る。」そこで、彼らはイエスに尋ねた。「先生、では、そのことはいつ起こるのですか。また、そのことが起こるときには、どんな徴があるのですか。」イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、ついて行ってはならない。戦争とか暴動のことを聞いても、お

びえてはならない。こういうことがまず起こるに決まっているが、世の終わりはすぐには来ないからである。」そして更に、言われた。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引っ張って行く。それはあなたがたにとって証しをする機会となる。だから、前もって弁明の準備をするまいと、心に決めなさい。どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである。あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺される者もいる。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくなる。忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。」

讃美歌 298 番

- 1 やすかれ わが心よ 主イエスは共にいます。痛みも苦しみをも 雄々しく忍び耐えよ
主イエスの共にませば、たええぬ悩みはなし
- 2 やすかれ わが心よ なみかぜ 猛るときも 父なるあまつ神の みむねに 委ねまつれ
み手もて 導きみたもう 望みの岸はちかし
- 3 やすかれ わが心よ 月日のうつろいなき み国は やがてきたらん。
うれいは 永久に消えて、輝くみ顔 仰ぐ いのちの幸(さち)をぞ 受けん **アーメン**

説教：「言葉と知恵をあなたがたに授ける」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

私たちはどんなことがあっても、人びとの声に惑わされず、神様に信頼してその時、その時に与えられる必要なことばを語り、イエス様に罪の赦しを与えられている平安と新しい命をいただいている希望をもって、すべてを耐え忍ぶことができます。私たちは毎日いろいろな人に出会います。どう受け止めたらいいか迷うようないろいろな出来事を見聞きたり経験します。苦しい時にはがまんの限界が近いと不安になります。しかし、私たちのためにイエス様をお与えくださって私たちの罪を赦して神の子としてくださった憐みに満ちた神様は、信頼して歩む私たちを今週も確かに支え下さり、人生の終わりまで、そして世の終わりまで、確かに導いてくださいますからほんとうに安心なのです。

さて、私たちは毎週、使徒信条を告白しています。その中に、御子イエス・キリストが「生ける人と死にたる人とを審くために、かしこより再びおいでになる」という告白があります。イエス・キリストが再びおいでになる、ということです。イエス様は 2000 年前に私たちの罪を赦すために十字架にかかって死んでくださいました。そして三日目によみがえって弟子たちに

四十日にわたってご自分をあらわしてから、天にのぼり父なる全能の神様の右にお座りになっています。一度目はこのように私たちの救いのためにお仕えになるお姿で来てくださいました。もう一度来てくださるときは世の終わりのときです。イエス様はレカによる福音書 21 章 27 節にあるように、大いなる力と栄光を帯びて雲にのってこられ、すべての人がその姿を見ます。そのときに生きている人も、それまでに死んでいる人もあわせて、お裁きになるために来られます。それは、イエス様によって罪赦され、新しい命に生かされている私たちにとっては、この世のあらゆる矛盾や葛藤、誘惑や貪欲からの最終的な解放の時です。そのときまで神様を認めないで自分中心な歩みを重ねている人々は、その罪を正しく裁かれます。使徒信条でこのように告白しているのは、今日開かれているみ言葉をはじめ、聖書のさまざまなところに記されていることの全体を短く告白しているのです。

今日のみ言葉は、エルサレムの神殿の荘厳さに見とれていた人たちにイエス様が言われたことで始まっています。エルサレムの神殿は美しく、また丘の上にそびえる圧倒されるような立派な建造物でした。人々はこの神殿を中心に生活していました。イエス様のご生涯でも、お生まれになってすぐにこの神殿に連れてきてもらっています。シメオンやアンナに出会っています。毎年神殿を訪ねました。少年時代にはイエス様が神殿の境内で聖書の学者たちと話している一コマも記されています。公の生涯を始めるときも悪魔は神殿のいただきにイエス様を連れて行って、飛び降りてみる、と誘惑をしました。エルサレムにおられるときは主にこの神殿の境内で人々に教えられました。そして十字架で死んでくださったとき、神殿の中にある垂れ幕が真ん中から上から下まで真っ二つに裂けました。よみがえったイエス様に出会ったお弟子たちはエルサレムでこの神殿の境内に集まり、いつも賛美をしていました。このとき、神殿はすごいですね、と荘厳さに見とれていた人たちにイエス様は、この堅牢な神殿にはやがて破壊される時がくる、と予告されました。現在の姿にほれぼれと見とれていた人々にはそんなことは考えられなかったようです。しかし、イエス様は、人の目に美しくまた力強く、当然その栄光は永遠に続くと思われることにも必ず終わりがくるとおっしゃいました。頼りにならないものに信頼しないで、わたしに信頼しなさい、とおっしゃっています。

驚いた人々は、それはいつ起こるのですか、何か前兆はありますか、と尋ねました。実際にはどうでしょう。紀元後七十年にローマ帝国の兵によって神殿は征服され、崩壊しました。イエス様はこのとき人々の質問にお答えになりながら、神殿の崩壊のときのことだけではなく、世の終わりのことについてもお語りになります。そのとき私たちが無意識のうちに信頼しているような、しっかりした人、しっかりした団体や組織、しっかりしたものも崩れてしまい、最終的にあてにしている心よりどころが奪われてしまうような事態が起こります。しかし、イエス様によって既に罪赦されて新しいいのちにあずかっている私たち、そして今、イエス様をお与えくださった恵み深い神様に信頼する私たちは、将来、どんなことがあっても惑わされず、深い平安をもって、おじ惑い、絶望する人々の間で、どのような苦しい迫害や危険があっても、

神様がとお与えくださる必要な言葉、必要な忍耐力をいただいて、命を勝ち取ることができる、と約束していただきます。

確かにエルサレムの神殿は崩壊しました。今エルサレムに行っても再建されていてほかの建物が立っています。そしてイエス様が言われたような様々な前兆がありました。キリストの名を名乗るもの、戦争や暴動、地震や飢饉や疫病、天体の異変、そしてイエス様を信じる者たちへの迫害など、新約聖書の使徒言行録にはその一部が記録されています。苦しい時に人々は助けを求めます。助けてあげよう、と親切を装って、服従を急がせる偽ものの救い主がたくさん現れます。民族が民族に対して、国は国に敵対して、世界中を不安に陥れます。地球はどうなってしまうのだろう、次から次へと起こる天災や人災に、被害にあった人びとへの救援活動はいつも不十分になってしまいます。このようなときに人々はうまく説明をする人々に軽率にもついていってしまいます。

私たちが安心できるのは、第一に、イエス様がこのようなことが起こることを既に想定されていて、その中で私たちが惑わされないように、それらを超えて働く神様に信頼するように、と仰ってくださいからです。どうしてこんなことが起こるのですか、どうして人生には次々に難しい問題がでてくるのですか、もう疲れ果ててしまいました、これからいつまで我慢しなければならぬのですか、という疑問にイエス様は、8 節にあるように、惑わされないように気をつけなさい、と言われます。人は神様に背を向けて自分中心に歩んでいるので自分の利益を最優先して、互いを傷つけ自然を損ないそれでもまだ欲求不満に操られています。私たちは時として、気を失うような恐れや不安におびえます。しかし、イエス様はそんなことが起こるとご存じです。そのうえで、何があっても惑わされないように気をつけなさい、と仰ってください。甘い言葉に騙されないように、あなたはそこから逃げ出さなくても大丈夫です、天地が滅びてもわたしの言葉は決して滅びない、とルカによる福音書 21 章 33 節で約束してくださっています。イエス様だけを信頼することが試されます。でもイエス様は、惑わされないで、とあなたに語ってください。

第二に、苦しみと不安の絶頂においても、そこでイエス様はあなたを見放さず、あなたを見捨てず、むしろそこでこそ働いてくださるから私たちは安心できます。ルカによる福音書を書いたルカが使徒言行録をも書きました。その中で、イエス様のお弟子たちが迫害されて、捕えられたり、迫害を命じた王様やローマの総督のまえに引っ張り出されたりしています。その都度、弟子たちはしっかりと支えられて、尋問の場をイエス様を賢く、誠実に、かつ力強く証しをする機会としました。イエス様はお約束くださいます。21 章 15 節です。あなたは前もって弁明の準備をしなくても、イエス様がどんな反対者も対抗できない言葉と知恵をあなたに授けます。このように、一番苦しいとき、一番不安なときに、イエス様はそのような最悪のときを一番イエス様の助けを経験する豊かなとき、証しのときにしてくださるとお約束くださっています。だから安心です。

第三に、イエス様は「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい」と言ってくださいましたから安心です。このように、私たちは苦しみに出会います。そして苦しみの絶頂においてさえ、イエス様の助けを経験します。それが忍耐です。そこでこそ命を勝ち取ることができるのです。私たちは究極的には頼りにならないものに、心のどこかで頑固に依存しているものです。当時の人びとはあの立派な神殿のような堅牢でびくともしないと思うものに望みをかけていました。そのような私たちの頑固さや偽りの安心は普段は私たちにも見えません。しかし、苦しみにあったときに不安の中で、実際に自分は無意識のうちにイエス様以外の何を信頼してきたのか、があらわになることがあります。うろたえます。さげびます。藁にもすがります。間違った教えに従おうとします。その場から逃げ出せるなら、もうどうなってもよい、と責任を投げ捨てようとしています。しかしそこにとどまってよいのです。そこで、ただイエス様だけに信頼していくようにと信仰が整えられます。不純物が熱によって精錬されて、純粋な金とれるように、私たちも試練によって精錬されて、純粋に、ただイエス様だけに信頼していくようにと、信仰の豊かさへ導かれます。イエス様が「忍耐によって命を勝ち取りなさい」、と言われたから安心なのです。

神殿はイエス様の予告通り、崩れ去りました。そして、最後の裁きの日にはイエス様の予告通り必ず来ます。また私たちがそれまでに命を終えることになるかもしれません。それが具体的にいつであるかは私たちには知らされていません。今週かもしれません。けれども、そのためにおびえて、とまどって、惑わされなくてもよいのです。むしろ、苦しみに会うことは普通のことですが、その中で、そしてその絶頂においても、イエス様が必要な言葉を与え、勇気と愛を与えてくださることが約束されていますから安心です。さらに、私たちは試練に会うことで、イエス様以外の人やものに心の信頼を寄せていたことに気づかされて精錬され、より純粋な信仰の豊かさへ導かれます。今週は皆さんにとってどんな一週間になるのでしょうか。あなたのために人となってきてくださった神の御子イエス様は、あなたと神様を隔てているあなたの罪のために、あなたが自分でどうにもできないその罪の性質を清めるために、あなたが受けるべき裁きを、あなたに代わって十字架で受けつくして下さって、あなたにはよみがえったイエス様の新しい命をお与えくださいます。そのイエス様は再び来られます。イエス様を信じるあなたやわたしを神の御国に伴ってくださいます。それまでに苦しみがあります、葛藤があります、悲しみがあります、悩みがあります。しかし安心してください。それらのものから逃げなくても、イエス様が助けてくださいます。イエス様以外のものを信頼する心を悔い改めて、イエス様にのみ信頼して歩みましょう。今週お出会いになる方々に、心を込めて、イエス様の愛をもってお仕えしましょう。あなたを苦しめるものから逃げられなくても、何もかも思い通りにならなくても、どうぞ忍耐をもって、イエス様だけに信頼して、人びとの利益になるように、隣人と一緒に幸せをつくりましょう。祈りつつ、今週も具体的な行動をもって信仰と愛にあふれて歩みを進めましょう。

どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである。ルカによる福音書 21 章 15 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってください。アーメン

讃美歌 520 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 静けき 河の岸边を 過ぎ行くときにも 憂き悩みの 荒海を 渡り行くおりにも
※心 安(やす)し 神によりて 安し
- 2 群がる仇(あだ)は 猛りて 困めど攻むれど いざなう者 ひしめきて 望みを砕くとも ※
- 3 うれしや 十字架の上に 我が罪は 死にき 救いの道 歩む身は ますらおのごとくに ※
- 4 大空は 巻き去られて 地は崩るとき 罪の子らは騒ぐとも 神による御民は ※ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏